

やのまへのすくねあかひと つく うた
山部宿禰赤人の作る歌二首 并せて短歌 たんか

九二三番

やすみしし わご大君の おほきみ
高知らす たかし
吉野の宮は よしの みや
たたなづく 青垣ごもり あをかき
川なみの かは
清き河内そ きよ かふち
春へには はる はなさ
花咲きををり あき
秋されば きりた わた
霧立ち渡る
その山の いやますますに この川の 絶ゆるこ
やま かは
となく ももしきの 大宮人は 常に通はむ
おほみやひと つね かよ

反歌二首 はんか

九二四番

み吉野の 象山のまの きよの まの
木末には こぬれ
ここだも騒く さわ
鳥の声かも とり こゑ

九二五番

ぬばたまの 夜のふけゆけば ひさき お
久木生ふる
清き きよ
川原に 千鳥しば鳴く かはら ちどり な